科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））研究進捗評価

課題番号	17H06115	研究期間	平成２９(2017)年度 ～令和３(2021)年度
研究課題名	言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究	研究代表者 （所属・職） （令和５年３月現在）	狩俣　繁久 （琉球大学・島嶼地域科学研究所・客員研究員）

【令和２(2020)年度　研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A＋	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、長年にわたって集積されてきた語彙に既存方言辞典の語彙を加え、集団遺伝学の解析手法によって視覚的で精緻な言語系統樹と言語地図の作成を目指すプロジェクトである。膨大な語彙データのDB 化が完了しており、2020 年夏に一般／研究者向けに公開を予定している。語彙数の多さや辞典ごとの表記ゆれを考慮すると、作業の困難さは容易に想像できる。研究計画調書に記載の計画に照らして、データ整備が遅れているものの、対策が講じられ新たな検索方式の発案に結びついていることから、研究の進展が認められる。また、音韻変化のプロセスを踏まえたクラスター分析が方言区分に有効であることを示すなど、多数の研究成果も上がっている。公開間近の一括検索機能付き DB を有効活用することによって、琉球列島全域の蓋然性の高い言語系統樹・言語地図が完成することを期待する。

【令和５(2023)年度　検証結果】

検証結果	
B	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。 本研究は、長年にわたって集積されてきた語彙に既存方言辞典の語彙を加え、集団遺伝学の解析手法によって、視覚的で精緻な言語系統樹と言語地図の作成を目指すプロジェクトである。2020 年の夏に一般／研究者向けに公開を予定していた「琉球方言音声データベース」について、従存の４つの方言音声データベースから一括検索するシステムを開発する予定とあったが、このデータベースがインターネット上からアクセスができない状態である。また、音韻変化のプロセスを踏まえたクラスター分析を集団遺伝学の手法を用いて行い、それが方言区分に有効であることを示しているが、日琉祖語*p、*k 以外の子音や母音についての解析結果を示す具体的な研究業績がない。 琉球方言の南北差が九州からのヒトの移動に起因することなど、従来の解析だけで分からなかった点について詳細な検討を行い、総合的な研究をしている点は評価できる。日本語と琉球語の系統関係について、本研究で得られた成果を一般にわかりやすい形で継続して公開することが望まれる。